

いそくじ 以速寺通信

2012/8 第118号

真宗大谷派三鏡山以速寺 発行

〒593-8312 堺市西区草部 79

TEL 072-275-0339

FAX 072-272-3020

暑いお盆が廻ってきました



生まれて
よかったという
喜びをもって
死んでいける身に
なってください

松扉哲雄

15日に盂蘭盆会（うらぼんえ）をお勤めします（詳細裏面）

一 出遇い その四



「おおなんじや、坊様もやはり吉水の住人になられたか。」

手拭いをほおかむりをした老婆が、にっこ笑いながら綽空(とつこく)と親鸞聖人を見つめる。

「おお婆様か。ひさしぶりじやの。どうしておった。心配しておたぞ。」

「なんの。少し風邪をひいておっただけじやよ。もうすっかり元気じや。」

「それは良かった。なにせ、私が今(いま)におられるのは婆様のお陰じやからな。最初に声をかけてくださったのは、婆様じや。」

「いやなんの。坊様がこの狭い堂内で人を押しつけて無理やり前に進もうとするからじやよ。目つきも怖かった。」

「すまん。すまん。しかし、婆様の『ただ念仏のみがわいらの唯一の救いの道じや』という言葉は私に響いた。」

「それはわしの言葉じやならぬ。法然上人さまのお言葉じや。」

「綽空よ。丁度良いではないか。不意に法然上人の声がする。」

「これはお師匠様。で、丁度とは…。」綽空よ。己が頂いているお念仏を、この御婦人に聞かせてあげなさい。」

「いえ、私などが人に教えを説くなどどうしてやね…。」

「はなは。今さら何を申す。良いか綽空。仏法は虚心に聞くことも大切じやが、頂いた信心を語ることもこれまた大切。語るとは自分の思いを整理して言葉を紡ぐこと。それは自分の信心が独りよがりでないかを確認することじや。」

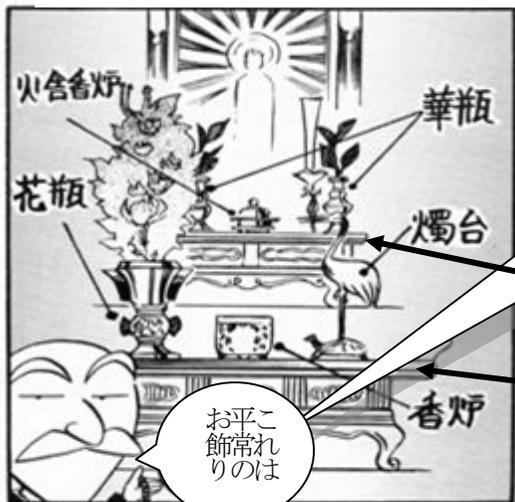
老婆はこの法然上人の言葉を聞くが否や、しわくちやになった笑顔で大声を出す。「みんな今(いま)はこの坊様が、わし(わたし)に法を説いてくださったおかげじやぞ。」

「すべにわらわらうと人が集まってくる。綽空よ。ど(ど)じや。おぬしも実は話したくてたまらんじやろ。念仏に出遇った感動は必ず人に伝えたくなるものじや。それが信心じや。そして案ずるな。」

この感動は自然と伝わるものじやよ。「はい。お師匠様(うしやうさま)こうして、親鸞聖人は輝きに満ちた老婆たちの眼を見つめながら教えを語り始めた。」

参考資料『まんが宗祖親鸞聖人』

参考 平常のお飾りです↓



お盆には、平常のお飾りに、打敷を掛け、一對の小餅をおそなえしましょう。お花も蠟燭も一つずつです。



上卓用打敷



前卓用打敷

お平(ひら)こ飾(かざり)常(とこ)れりのは

お盆のお内仏のお飾り



以速寺行事のご案内

どなた様も
ご参詣お待ち
しています。

うらぼんえ 盂蘭盆会

お盆のお勤め(盂蘭盆会)をいたします。

- 8月15日 午後7時30分から 法話 住職

* 本堂収骨を内陣へ移動してお勤め(読経)します

ひがんえ 彼岸会

秋分の日にお彼岸のお勤めをいたします。

- 9月22日 午後7時30分から 法話 住職

* 本堂収骨を内陣へ移動してお勤め(読経)します

彼岸会はお中日の22日ですが、お彼岸は9月19日から25日までとなります。

本堂はいつでも開けております。どうぞご自由に参拝ください。



ほうおんこう 報恩講

親鸞聖人の毎年の法要を勤めます。

- 11月2日(金) 午後2時から お勤め 法話

午後7時から

ごでんしょうはいどく
御伝鈔拝読法話

3日(土) 午後2時から

お勤め 法話

報恩講法話の講師は大阪市本照寺前住職沖野頼信師です

編集後記

今年も酷暑と共にお盆が廻ってきました。昔ほどではありませんが、既に帰省ラッシュの予想も出ています。何も込み合う日に帰省しなくても良いのですが、お盆と言つとどうしても故郷の香りが懐かしくなるようで、加えて多くの方がお墓参りに行かれます。

ふと、ある先生から「都会に出た多くの人がお盆に故郷のお墓をお参りするのには、自分が根なし草でないということを確認するためです。」と教えていただいたことを思い出しました。自分のいのちはある日突然大地から湧いて出たのではなく、父と母がいて、祖父と祖母がいて、そのまた上に曾祖父と曾祖母がいてと、ずっと繋がっていると理屈では分かっています。

しかし、毎日の生活はジェットコースターのように飛び去り、自分がいったいどこから来て、どこへ向かうのか、そもそも私の過ぎ去って行く毎日は本当にこれで良いのかと、ふと疑問に思う時があります。これは、どこか心の深いところからの叫び声のような気さえします。

そんな時は「私は根なし草ではない。願われて今ここに生きている」という確かめをいたくなります。なるほどここで、自分のいのちの根である先祖を感じられる、お墓に手を合わせる大きな意味を持つのでしょうか。

さて、一頁目にまとめてみましたが、私たち仏教徒の先祖は、お盆とは「逆さぶりの私」を意味し、本当に大切なものは何であるかを見直す期間といただいてきました。

お墓だけではなくご自宅のお内仏で、そしてお寺で私の大切な「根」を御一緒に考えてみませんか。住職 山雄竜磨